

国語科学習指導案

1. 単元名「ウナギのなぞを追って」(光村図書 4年)

2. 考察

(1) 教材観

①学習内容：学習指導要領上の位置づけ

読むこと ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。

②身に付けさせたい資質・能力

- ・目的に合わせて、必要な文や言葉を選び、要約する力。
- ・接続語を、文章に合わせて適切に用いる力。

③ そのために必要な指導・学習活動

- ・要約をする際に、中心となる語や文を選ぶことができるようにするために、題材について自分なりに問いの文を設定する。
- ・要約の技能を確実に身に付けるために並行読書を行い、その本の紹介カードを作る活動を設定する。

④ 今後の学習の活用

5年「見立てる／生き物は円柱形」(筆者の考えの進め方をとらえ、自分の考えを発表しよう)で要旨をとらえることについて学習する。要旨をとらえ、まとめる際に、本題材を通して身につけた「必要な文や言葉を選ぶ力」を生かすことができる。

(2) 児童生徒の実態及び指導方針

①既習の学習内容や活動

3年生「ありの行列」(考えの進め方をとらえて、科学読み物をしょうかいしよう)では、「なぜ、ありの行列ができるのでしょうか」という問いの文を中心に本文を読むという学習をしてきている。

4年生の1学期には、「大きな力を出す／動いて、考えて、また動く」(きょうみをもったところを発表しよう)で文章の中で特に興味をもった内容についての感想を本文を引用しながらまとめ、発表する活動を行った。

「本は友達 読むことについて考えよう」では、友達に読んでもらいたい本を紹介するカードを作成した。その際に、相手が興味をもってくれるように、心に残った文章や言葉を引用したり、本に書いてあるあらすじを参考にしたりしながら、作品の内容をまとめた。

②本単元に関わる児童の実態

・読む能力

昨年度行った学力調査の結果を見ると、読むことの領域では、全国平均正答率をわずかに下回っていた。しかし、説明文の「はじめ」には話題や問いの文、双括型(頭括型は未習)の場合には筆者の主張などが書かれていることや、「中」には、筆者の体験や実験などを例として挙げながら、読者に筆者の主張の根拠となる内容を分かりやすく説明していること、「終わり」には筆者の主張などが書かれていることなど説明文の組み立てについて、理解している児童は多い。

・伝統的な言語文化と国語科の特質に関する事項

要約をする際に必要となる接続語の使い分けを苦手とする児童が多くいる。「つまり」は文章をまとめるときに用いるなど、接続語とその用法は理解できていても、文章の中で接続語の部分が穴抜けになっていると、適切な接続語を選ぶことができない児童が多いことから、各段落の役割を、理解することが困難なのだろうと考えられる。そのため、これまでの説明文の学習では段落の文章全体における役割を意識してきた。

③指導方針

- ・学力が低位の児童でも、要約の技能を身に付けられるようにするため、まずは、教材文の要約をグループで行い、それから並行読書をしている本の要約を個人で行うようにする。
- ・完成した「自然のひみつカード」は、図書室に展示するということを伝え、児童の学習意欲を高める。
- ・本文の内容から「興味をもったところ」を選択することが困難な児童がいると予想されるため、「興味をもったところ」を「誰かに伝えたいところ」や「一番面白いところ」など別の言葉でも表現させ、テーマを選択しやすくする。
- ・既習事項（問いと答え）を活用することで、要約の仕方についての理解を助ける。
- ・目的に沿った文を選択できるようにするために、題材について、自分なりの「問い」を設定し、「それに対する答え」は何かを考えさせるようにする。
- ・文章の理解が困難な児童もいるため、本文中にある写真や図を使いながら、内容を把握していく。
- ・要約は、目的によって、取り上げる文が異なってくるということを理解させるため、グループごとに作成した教材文の要約を大きな模造紙に貼り、クラスで一つの新聞にすることで、それぞれの要約文を視覚的に比較しやすくする。

3. 単元の目標

自分が興味をもったところ、感心したところを中心に、文章を要約したり、引用したりして紹介することができる

4. 評価規準

評価の観点	おおむね満足できる状況
国語への関心・意欲・態度	○文章の中から、必要な文や言葉を、自分なりに選ぶことができる。 ○要約の仕方を生かして、「科学読み物紹介カード」を書こうとしている。
読む能力	○文章の中から、必要な文や言葉を、適切に選ぶことができる。 ○目的を意識して、文章を読んでいる。
言葉についての知識・理解・技能	○接続詞を適切に用いることができる。

5. 指導と評価の計画（本時3時／全8時間）

学習過程	時	学 習 活 動	指導上の留意点	評価の観点		
				関	読	言
つかむ	1	<p>○科学読み物『モグラのもんだいモグラのもんく』を例に紹介文の書き方をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 単元のめあて 自然のひみつカードを作ろう。 </div> <p>○学習計画をたてる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介文には問いと自分が一番興味をもった内容の要約文、その感想を書くということをつかませる。 ・児童が主体的に取り組み、要約の力を確かなものにするため、並行読書を導入する。 ・低位の児童も確実に力を身に付けられるよう教材文の要約はグループで行い、「ウナギのなぞを追って」新聞にまとめる。 ・自然のひみつカードは図書室に展示することを伝え、学習意欲を高める。 	○		

	2	<p>○本文の範読を聞いた後、内容の確認をし、自分が一番興味をもった「ウナギのなぞ」(テーマ)を決める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">めあて 自分が一番興味をもった「ウナギのなぞ」を決めよう。</div> <p>○並行読書をしている科学読み物の中で、一番興味をもった内容を決め、ワークシートに書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内容を確認するために、範読後、文や写真、図を見返しながら、どのようなことが書いてあったか自由に発表させていく。 ・児童の発言を、「ウナギの一生がわかっていないところ」「レプトセファルスの旅」「毎年、船で海に出て調査をするところ」「一つの研究に長い年月がかかるところ」に分けながら板書していくことで、自分が一番興味をもったなぞを選択しやすくする。 	○		
追究する	3 (本時)	<p>○本文に「問いの文」があるとしたら、どのような文になるか、同じテーマを選んだ児童同士で考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">めあて 紹介文を読みたくなるような問いの文を、筆者のかわりに作ろう。</div> <p>○並行読書をしている科学読み物について自分なりの問いを設定し、ワークシートに書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ウナギのなぞを追って」新聞を書くために必要な言葉や文を選ぶには、何を手掛かりにしたらいいか、これまでの説明文の学習を振り返りながら考えさせる。 ・説明文を読むときには「問いの文」を手掛かりにしていたことを想起させ、本文には「問いの文」がないことに気づかせる。 ・これまでに扱ってきた説明文の「問いの文」を掲示したり、グループで話し合う時間を設けたりすることで、テーマに沿った問いの文を作ることができるようにする。 	○		
	4	<p>○前時に作成した「問いの文」に対する答えの文に線を引き、ワークシートに書きだしていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">めあて 問いに対する答えをさがそう。</div> <p>○並行読書をしている科学読み物について、問いに対する答えを探し、ワークシートに書き出す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・低位の児童が学習に参加できるように、グループで話し合いをする。 ・答えの文がどれだか分からない児童には、「問いの文」に関する写真や図を参考にするよう声をかける。 ・どこに線を引いたか、グループのメンバー同士で比較しやすくするために、本文をA3版一枚にしたプリントを用意し、そこに線を引かせる。 	○		
	5	<p>○グループごとに、前時に書き出した文どうしを、つなげたり消したりしながら要約文を作る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">めあて 答えの文を、つなぎ言葉を使ってつなげよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・書き出した文を、一旦声に出して読ませることで、文章の違和感に気づかせる。 ・適切な接続語を使うことができるようにするために、「文と文をつなぐ言葉」の授業でまとめた接続詞の表を掲示する。 			○
	6	<p>○グループごとに、前時に作った要約文を清書し、個人の感想を付け足すことで、「ウナギのなぞを追って」新聞の担当記事を完成させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">めあて 新聞記事を完成させて、発表しよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・どこを中心に要約するかによって、文章が異なることに気づかせるために、完成した記事を一つの大きな模造紙に貼り要約文同士を比較しやすくする。 ・要約についての学習を振り返り、まとめたものを教室に掲示することで、これから要約をする際に生かせるようにする。 	○		

ま と め る	7	○第4時に、ワークシートに書き出した文を、つないで要約文を作る。 めあて 自然のひみつカードの要約文を作ろう。	・完成した要約文を近くの人と読み合い、感想を伝え合うことで、要約文を適切に作れているか確認できるようにする。 ・要約の仕方をいつでも確認できるように、前時の振り返りをまとめたものを、教室に掲示しておく。			○
	8	○前時に考えた要約文に対する感想を書き、科学読み物紹介カードを完成させ、互いに見合う。 めあて 自然のひみつカードを完成させよう。	・振り返りの際に、要約の仕方や、要約の利点、これからどんな場面で要約を生かせるかを考えることで、これからの生活や学習につなげていく。	○		

6. 本時

(1) ねらい

本題材の興味をもったところについて要約をする際、適切な文や言葉を選べるようにするために、自分が選んだテーマに沿って、グループで「問いの文」を設定することができる。

(2) 準備

問いの文の例をまとめた模造紙・短冊・ホワイトボード・話し合いの順序をまとめた掲示用の紙・タブレット・ワークシート

(3) 展開

学習活動 ・予想される児童の反応	時間	指導 形態	指導上の留意点及び支援・評価 ◎努力を要する児童への支援◇評価
1. これまでの学習から、説明文を読むときのポイント（問いと答え）を確認し、学習計画をもとに、本時のめあてを設定する。 ・新聞を作るために必要な文や言葉を選ばなきゃいけないな。 ・文章が長くてどこが大切なのかが分からないな。 ・説明文を読むときには「問いの文」を手掛かりにしている。 ・この文章には「問いの文」がないなあ。 ・紹介文にも「問いの文」があると、読む人が興味をもってくれるんじゃないかな。 ・先生が書いた「モグラのもんだいモグラのもんく」の紹介文にも、最初に問いの文があったよ。	5	一斉	○学習の流れをいつでも確認できるようにするために、学習計画を教室に掲示しておく。 ○今まで説明文を読むときには何を手掛かりにしていたかを問いかけ、本題材には「問いの文」がないことに気づかせる。 ◎「問いの文」がないことにすぐ気づくことができない場合は、実際に本文の中から「問いの文」を探してみるように声をかける。 ○必要に応じて、「アップとルーズで伝える」の教科書やノートを見返すよう促すことで、既習事項を想起させる。
めあて 紹介文を読みたくなるような問いの文を、筆者のかわりに作ろう。			

<p>2. 自分が選んだテーマに関する問いの文を作り、短冊に書く。</p> <p>問いの文の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「言葉遊びには、ほかにどのようなものがあるのでしょうか。また、どのような楽しさがあるのでしょうか。」 (三年 言葉で遊ぼう) ・「なぜ、ありの行列ができるのでしょうか。」 (三年 ありの行列) ・「アップとルーズでは、どんなちがいがあ 	5	個人	<p>○どのような「問いの文」を作ったらよいか、イメージをもつことができるようにするために、これまでに学習した説明文の「問いの文」をまとめたものを掲示する。</p> <p>◎自力で問いの文を作ることが難しい児童には、どのような言葉を使うといいか考えさせ、その言葉だけを短冊に書くように声をかける。</p>
<p>3. グループで、互いに作った問いの文を比較したり、組み合わせたりしながら、よりよい問いの文を完成させ、発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問いの文は「でしょう。」や「でしょうか。」で終わっているね。 ・「どのように」「どんな」「なぜ」など詳しく尋ねる言葉が使われているといいんじゃないかな。 ・題名で使われている言葉が、問いの文でも使われていることが多いことに気づいたよ。 <p>☆以下のような問いの文が完成することが望ましい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ウナギの一生が分かっていないところ」を選んだ場合→(ウナギの一生について、分かっていることと分かっていないことはなんでしょう。) ・「レプトセファルスの旅」を選んだ場合→(レプトセファルスはどのように日本にやってくるのでしょうか。) ・「一つの研究に長い年月がかかるところ」を選んだ場合→(どのような研究に、どのくらいの年月がかかったのでしょうか。) 	20	少人数 ↓ 一斉	<p>○あらかじめ、同じテーマを選択した児童同士でグループを組ませ、近くの席に座らせておく。</p> <p>○いいと思った表現に赤で波線を引かせることで、問いの文の共通点に気づくことができるようにする。</p> <p>○ホワイトボードを使用することで、問いの文の完成までの過程が目に見えるようにする。</p> <p>○話し合いが活発に進行し、友達の考えを聞いて、自分の考えを深めることができるようにするために、「なぜ～と考えたの」と理由を問う「なぜなぜ質問」をさせる。</p> <p>◎話し合いの順序を明確に示しておくことで、話し合いに参加できるようにする。</p> <p>○各グループから出た、問いの文を作るうえでの工夫点を黒板にまとめておき、この後並行読書をしている本の問いの文を作る際に、参考にできるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇自分が選んだテーマに沿った問いの文を作るために、自分の考えをもち、話したり、友達の考えを聞いたりしている。 (観察・短冊・ホワイトボード)【読】</p> </div>

<p>4. 並行読書をしている科学読み物について、自分なりの問いを考える。</p>	<p>10</p>	<p>個人</p>	<p>○並行読書をしている本の要約の過程を一目で確認することができるようにするため、ワークシートを用いる。</p> <p>◎「問いの文」の作成の過程を確認できるようにするために、3で使用したホワイトボードを黒板に貼っておき、必要であれば見にくるように声をかける。</p>
<p>5. 本時の振り返りをし、次時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ文章を読んでも、グループによって全く違う問いの文が完成したな。 ・大切な文や言葉を見付ける方法が分かった。 ・グループで友達の考えを聞いたら、「問いの文」の作り方が分かった。 	<p>5</p>	<p>個人 ↓ 一斉</p>	<p>○次回は、各グループで「問いの文」に対する答えを探すことで文章を読み深めることを伝える。</p>

各グループのホワイトボード完成予想図（青字の部分や、枠は事前に教師が用意しておく）

